



県政世論調査

平成 28 年度

概要報告書



静岡県

目 次

	ページ
調査の概要	1
(生活についての意識)	
暮らし向き	2
日常生活の悩みや不安	3
静岡県の住みよさ	4
(県の仕事に対する関心)	
県政への関心度	5
行政機関への意見や要望、不満	6
広報媒体の浸透度	8
日常の課題や生活における意識	10
生物多様性に関する意識	24
景観に関する意識	25
防犯及び交通安全に関する意識	27

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 生物多様性に関する意識
- (4) 景観に関する意識
- (5) 防犯及び交通安全に関する意識

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 4,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- 調査時期 平成28年6月15日～6月28日
- 調査機関 株式会社SBSプロモーション

4 回収結果

	20歳以上の 推定人口	標本数	回収数（率）	有効回収数（率）
東 部	1,012,197	1,331	677 (50.9%)	677 (50.9%)
中 部	968,259	1,274	664 (52.1%)	664 (52.1%)
西 部	1,065,533	1,395	741 (53.1%)	741 (53.1%)
地域不明			110 (—)	98 (—)
全 県	3,045,989	4,000	2,192 (54.8%)	2,180 (54.5%)

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は2,180を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 グラフの中の「n」（number of caseの略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、質問の「SQ」（Sub-Questionの略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問であり、末尾に（M. A.）（Multiple Answersの略）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

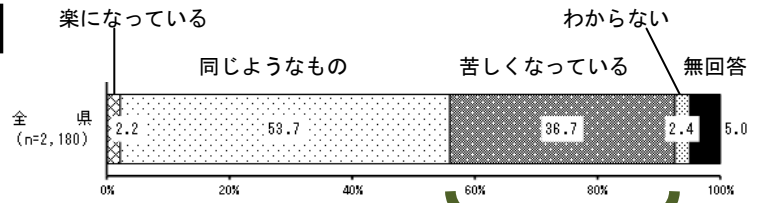
暮らし向き — 「苦しくなっている」という人が36.7%、20代は24.2%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由はなんですか。(3M.A.)

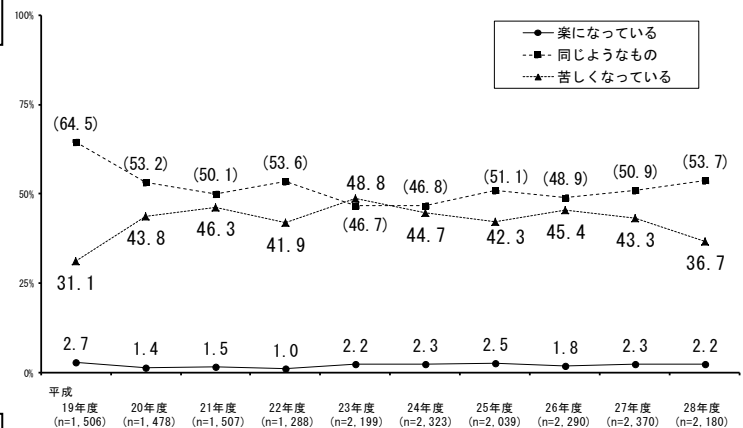
暮らし向き

●暮らし向きが「同じようなもの」と回答している人は53.7%、「苦しくなっている」人は36.7%となっている。



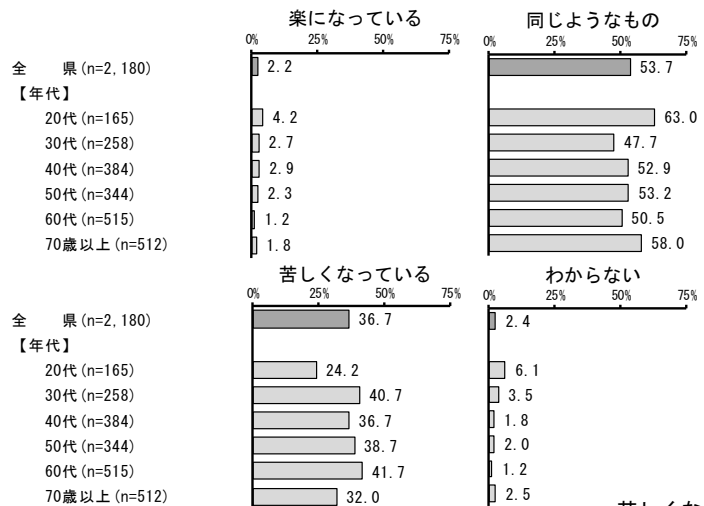
経年比較

●平成19年度以降の推移で見ると、平成20年度以降「同じようなもの」と回答した人の割合が6割を下回っている。「苦しくなっている」は4割台で推移していたが、今年度は36.7%と低くなっている。



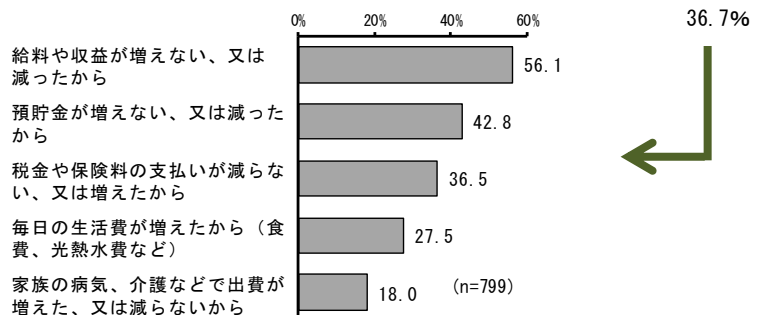
年代別

●「同じようなもの」が『20代』で63.0%と最も高くなっている。また、「苦しくなっている」は『20代』が24.2%と最も低く、『30代』、『60代』が4割を超えて高くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

●暮らし向きが「苦しくなっている」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が56.1%で最も高く、以下、「預貯金が増えない、又は減ったから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」の順となっている。(右図は上位5位)



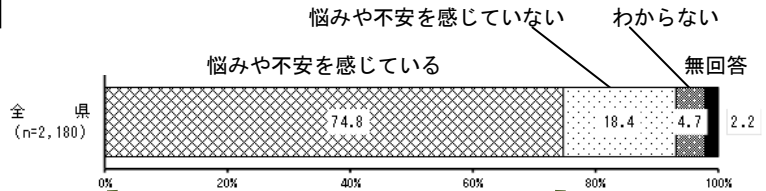
日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人が 74.8%

Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。

SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(M.A.)

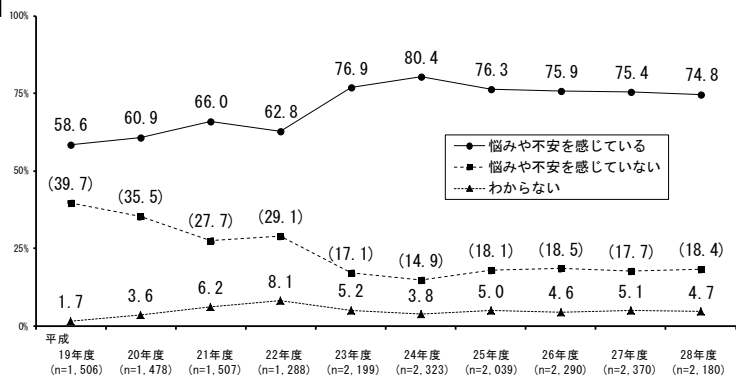
日常生活の悩みや不安

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は 74.8%と、4人に3人の割合となっている。



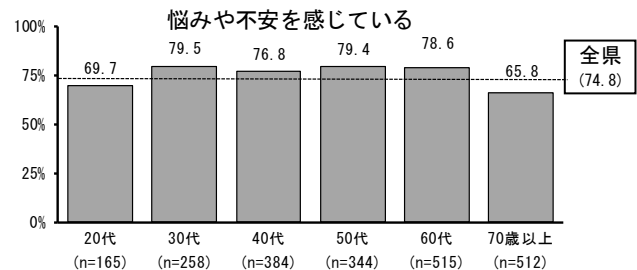
経年比較

- 平成 20 年度以前は、「悩みや不安を感じている」が6割前後で推移していたものの、平成 23 年度以降においては、7割を上回っている。



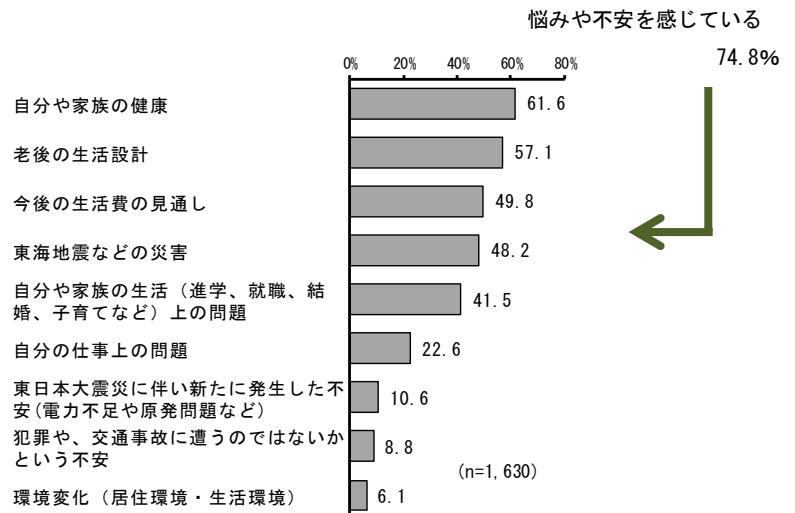
年代別

- 「悩みや不安を感じている」が『20代』、『70歳以上』において7割を下回っている。



SQ 悩みや不安の内容

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容について尋ねたところ、「自分や家族の健康」が61.6%と6割を超え最も高く、以下、「老後の生活設計」、「今後の生活費の見通し」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



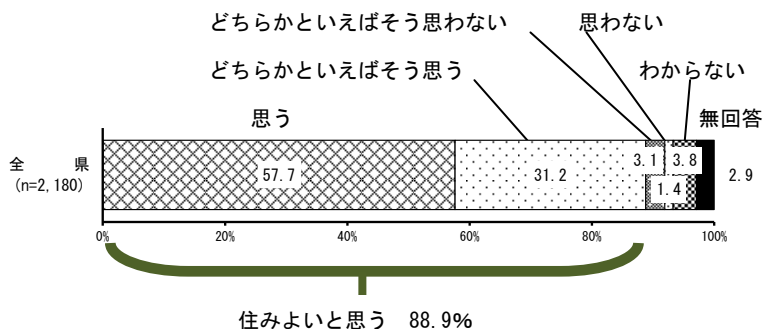
静岡県の住みよさ —住みよいところだと「思う」人が88.9%

Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。

SQ あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(3.M.A.)

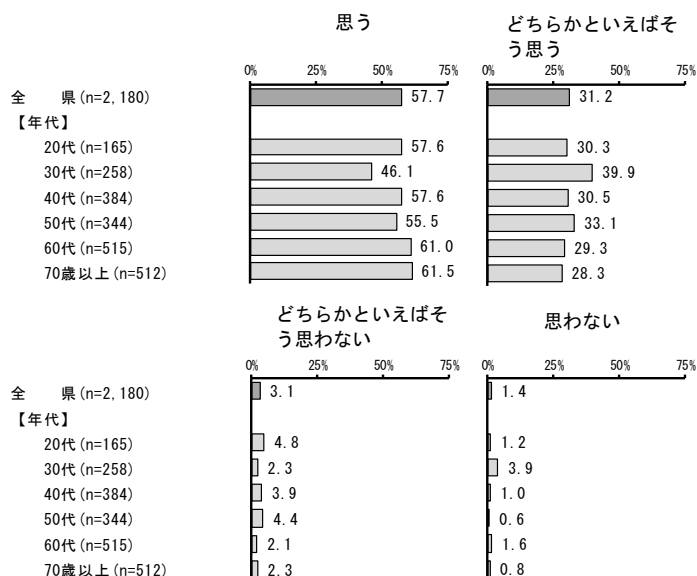
静岡県の住みよさ

●静岡県は住みよいところだと思うかについては、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた88.9%の人が静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



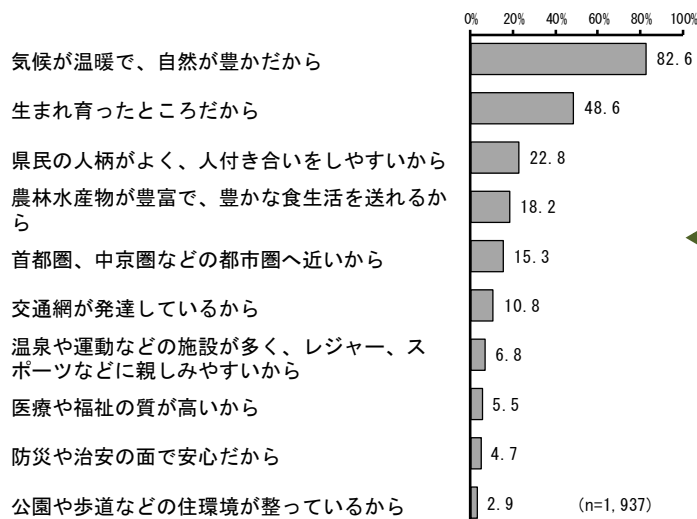
年 代 別

●静岡県は住みよいところだと「思う」と回答した人が『30代』において46.1%と5割を下回って低く、『60代』、『70歳以上』において6割を超えて高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県は住みよいところだと「思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が82.6%と最も高く、以下、「生まれ育ったところだから」、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」、「交通網が発達しているから」、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」、「医療や福祉の質が高いから」、「防災や治安の面で安心だから」、「公園や歩道などの住環境が整っているから」の順になっている。(右図は上位10位)



県政への関心度 — 県政に「関心がある」人は 57.0%

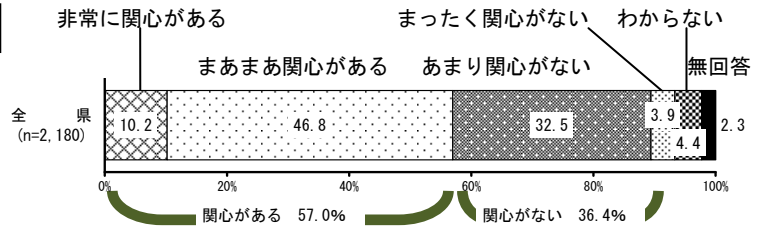
Q4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。

SQ1 県政に関心がある理由はなんですか。

SQ2 県政に関心がない理由はなんですか。

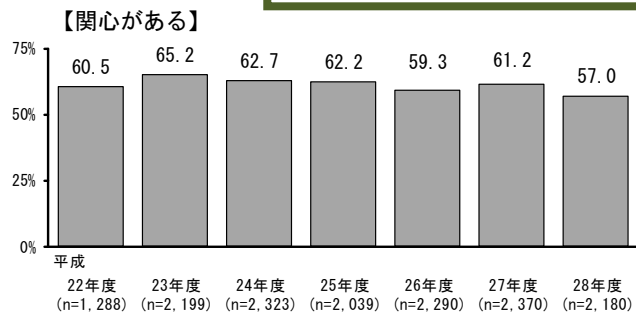
県政への関心度

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」と回答した人を合わせた 57.0% の人が県政に関心があると回答している。



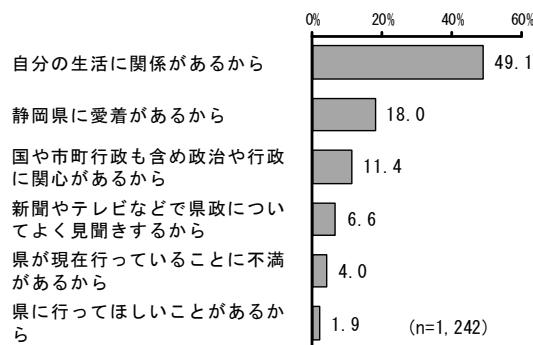
経年比較

● 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は 6 割前後で推移していたが、今年度は前年度より 4.2 ポイント低くなっている。



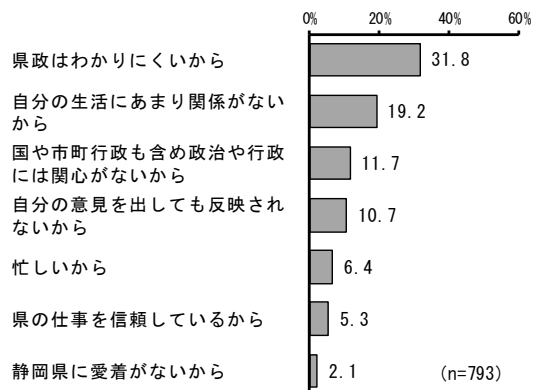
SQ1 関心のある理由

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「自分の生活に関係があるから」が 49.1% と最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



SQ2 関心がない理由

● 県政に「まったく関心がない」と「あまり関心がない」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「県政はわかりにくいから」が 31.8% と最も高く、以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



行政機関への意見や要望、不満

— 行政機関への意見や要望、不満が「ある」人は41.6%

Q5 あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

SQ1 それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(M.A.)

SQ2 その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたが。

SQ3 それでは、そのことを県に伝えましたか。

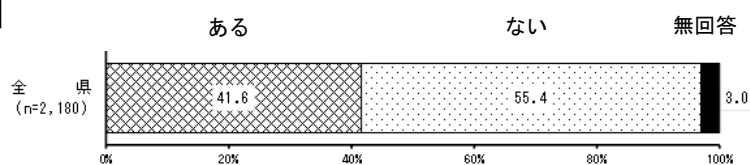
SQ4 どのような手段で伝えましたか。(M.A.)

SQ5 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。

SQ6 どうしてそのように(「伝えても無駄だと思ったから」)思ったのですか。

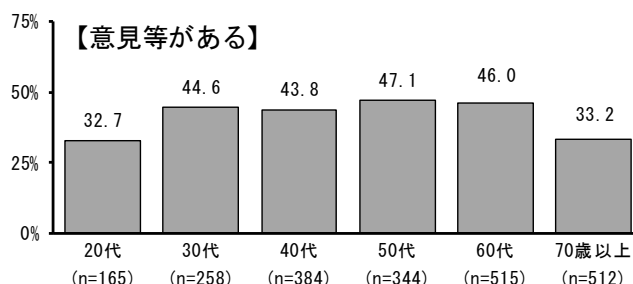
行政機関への意見や要望、不満

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は41.6%となっている。



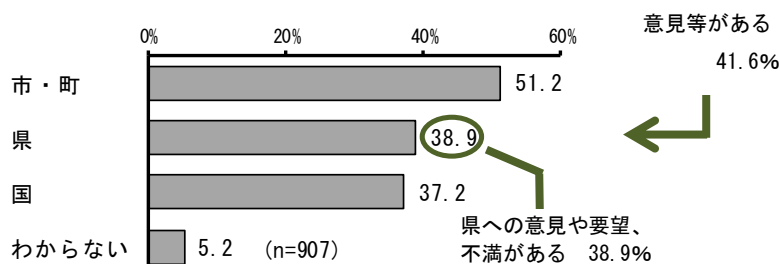
年代別

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は、『20代』と『70歳以上』において、4割を下回っている。



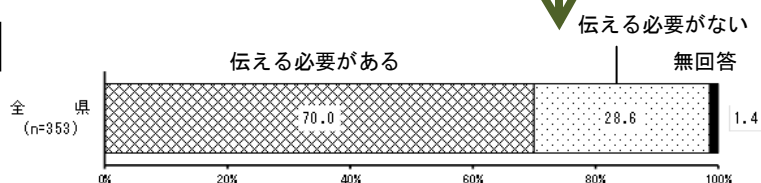
SQ1 担当する行政機関

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、どの行政機関が担当している仕事かを尋ねたところ、「市・町」が51.2%と最も高く、以下、「県」、「国」の順になっている。



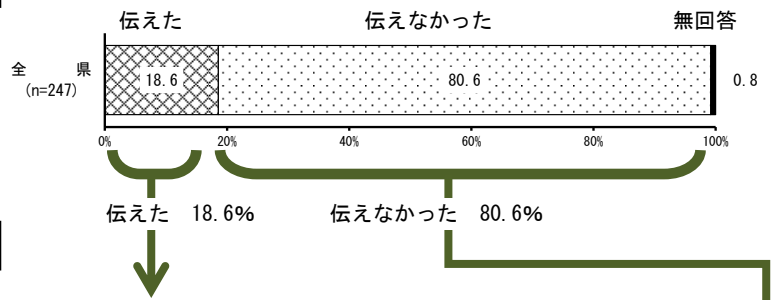
SQ2 伝達の必要性の有無

- 県の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、県への伝達の必要性の有無を尋ねたところ、「伝える必要がある」人は70.0%となっている。



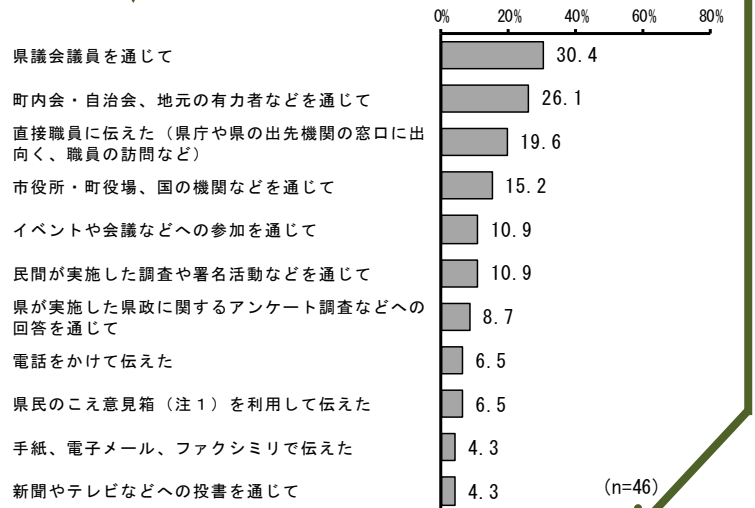
SQ3 伝達の有無

- 県に意見や要望、不満を伝える必要がある人のうちそのことを、県に「伝えた」人は18.6%となっている。



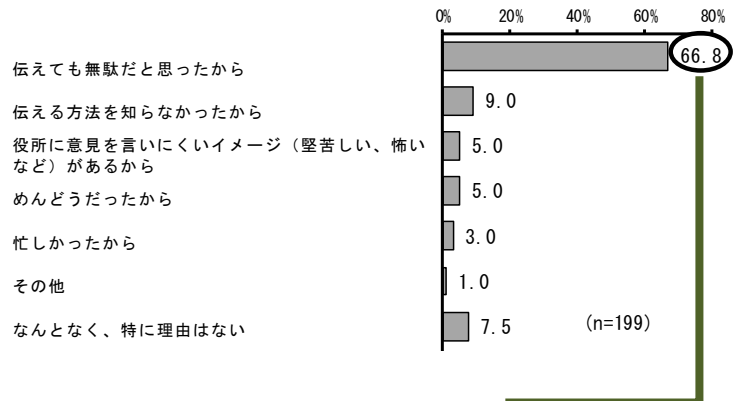
SQ4 伝達方法

- 県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えた」人に、その方法を尋ねたところ、「県議会議員を通じて」が30.4%と最も高く、以下、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」、「県庁や県の出先機関の窓口に出向いたり、職員の訪問を受けて直接職員に伝えた」、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」の順になっている。(右図は上位10位)



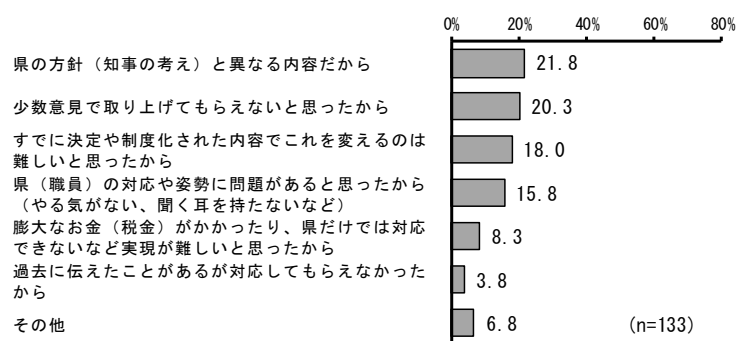
SQ5 伝達しなかった理由

- 県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人に、その理由を尋ねたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が66.8%と最も高く、以下、「伝える方法を知らなかったから」、「役所に意見を言いにくいイメージ（堅苦しい、怖いなど）があるから」、「めんどうだったから」、「忙しかったから」、「その他」の順になっている。



SQ6 「伝えても無駄だと思った」理由

- 伝えなかった理由を「伝えても無駄だと思った」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「県の方針（知事の考え）と異なる内容だから」が21.8%と最も高く、以下、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」、「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」の順になっている。



広報媒体の浸透度

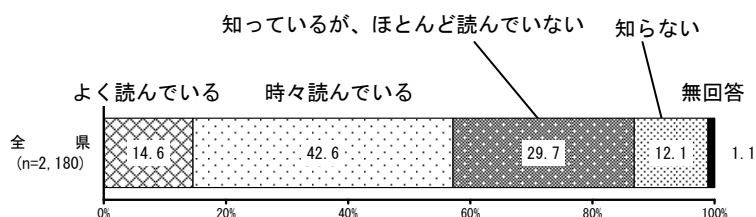
——「県民だより」を読んでいる人は57.2%、

「テレビ広報番組・コマーシャル」を見た人は41.3%——

Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

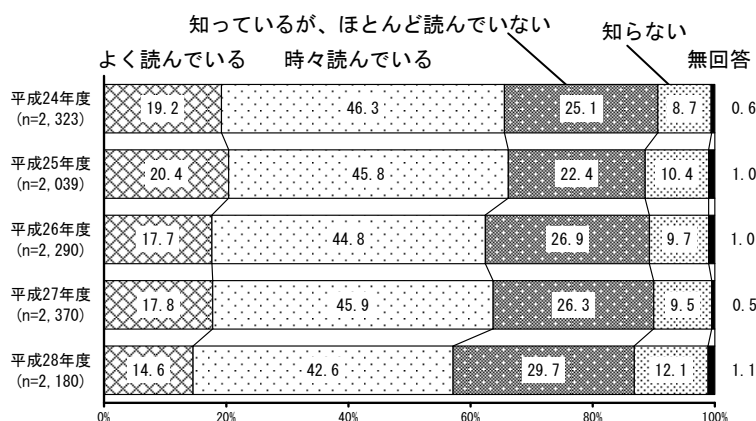
県民だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた57.2%が県民だよりを読んでいる。



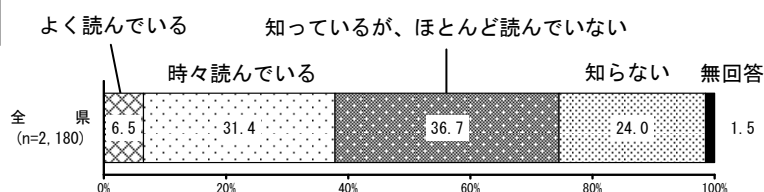
経年比較

- 平成24年度以降「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合は6割台で推移していたが、今年度は前年度より6.5ポイント低くなり、6割を下回っている。



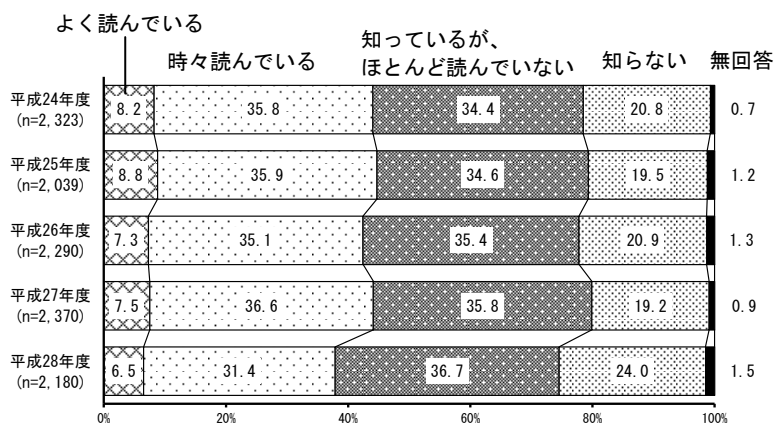
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた37.9%が静岡県議会だよりを読んでいる。



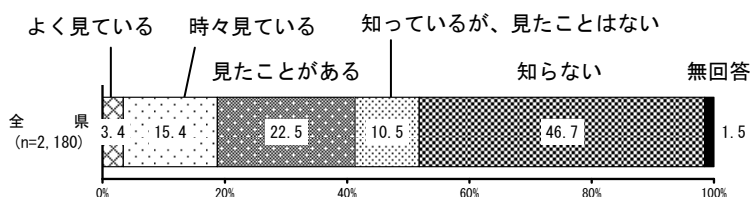
経年比較

- 平成24年度以降「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合は4割台で推移していたが、今年度は前年度より6.2ポイント低くなり、4割を下回っている。



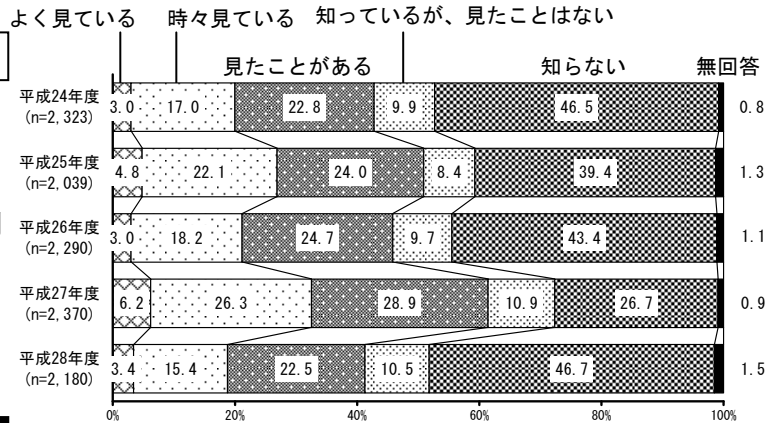
テレビ広報番組・テレビコマーシャル

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた41.3%がテレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ている。



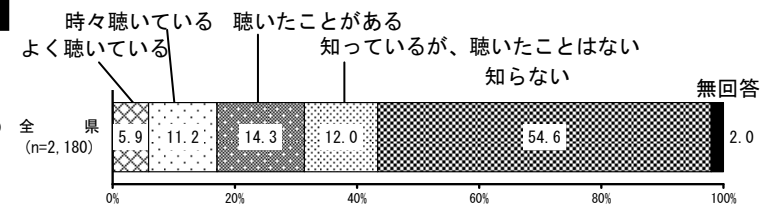
経年比較

●前年度に、テレビ広報番組・テレビコマーシャルを「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた割合は6割を上回ったが、今年度は20.1ポイント低くなり約4割となっている



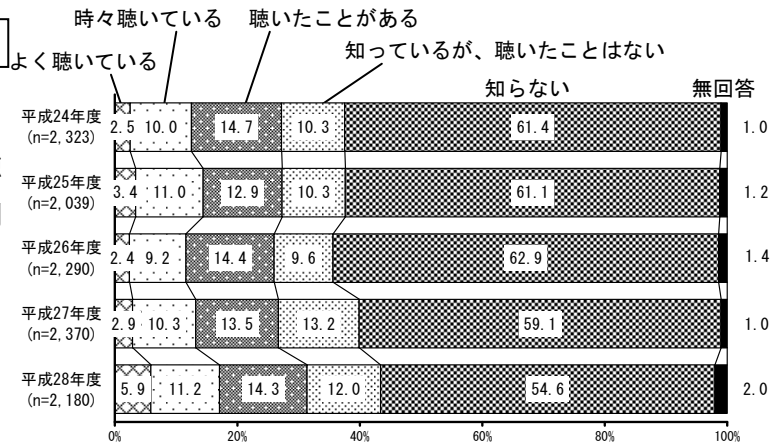
ラジオ広報

●「よく聴いている」、「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた31.4%がラジオ広報を聴いている。



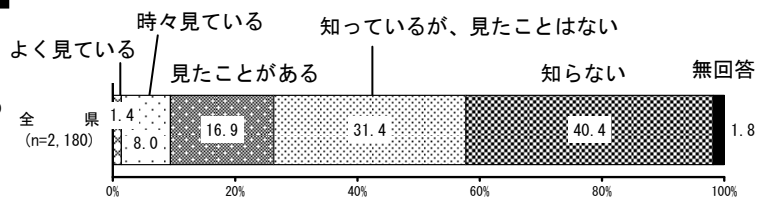
経年比較

●平成24年度以降、ラジオ広報を「よく聴いている」、「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた割合は2割台で推移していたが、今年度は前年度より4.7ポイント高くなり、3割を上回っている。



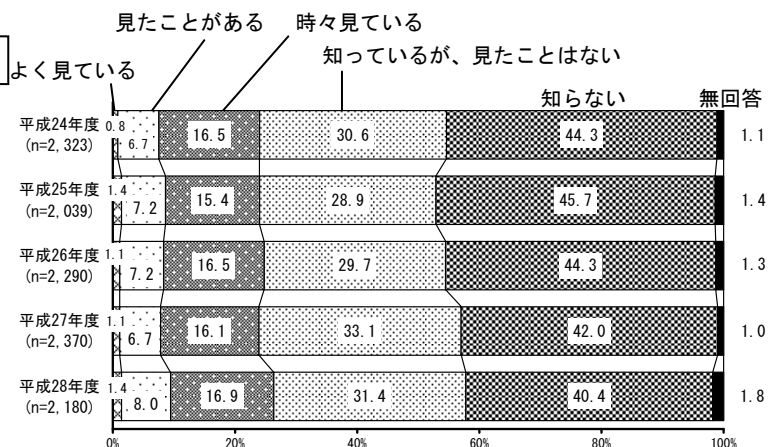
県のホームページ

●「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた26.3%が県のホームページを見ている。



経年比較

●平成24年度以降、「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた人の割合は2割台で推移しており、今年度は前年度より2.4ポイント高くなっている。



日常の課題や生活における意識

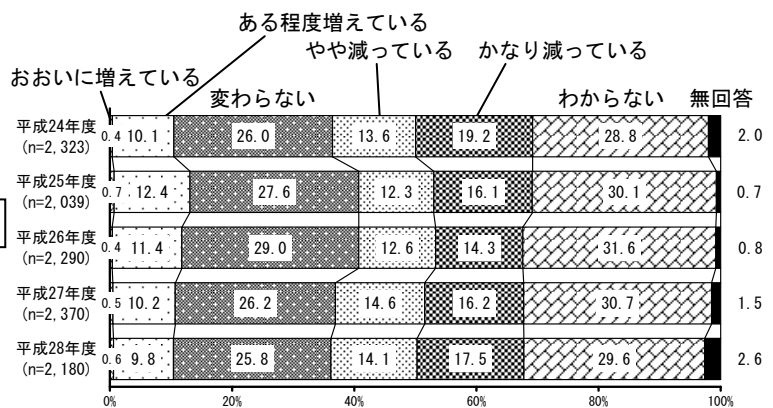
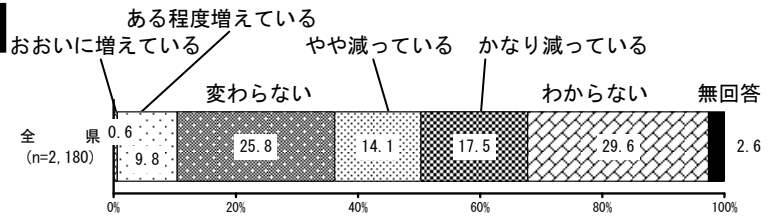
Q7 あなたは、日常生活の中で、思いやりをもって行動できる「有徳の人」が増えていると思いますか。

「有徳の人」の増減

- 「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた 10.4% が「有徳の人」が増えているとしている。一方、「かなり減っている」と「やや減っている」を合わせた 31.6% は「有徳の人」が減っているとしており、「有徳の人」が減っていると思う人が、増えていると思う人の約 3 倍になっている。

経年比較

- 平成 24 年度以降、「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた割合は 1 割台で推移している。



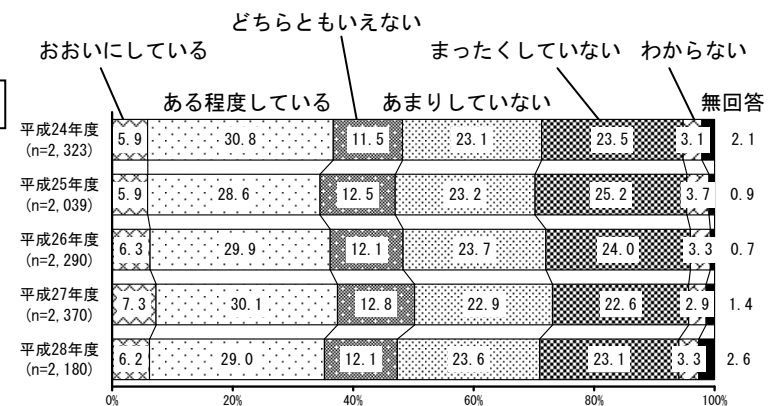
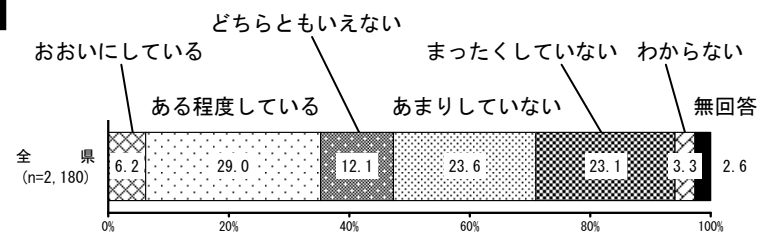
Q8 あなたは、学問・学習（文）、スポーツ（武）、文化・芸術（芸）のいずれかの分野で、自己を磨く努力をしていますか。

文・武・芸への取組状況

- 「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた割合 35.2% が文・武・芸を磨く努力をしている人、「まったくしていない」と「あまりしていない」を合わせた割合 46.7% は文・武・芸を磨く努力をしていない人となっている。

経年比較

- 平成 24 年度以降、「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた割合は 3 割台で推移している。

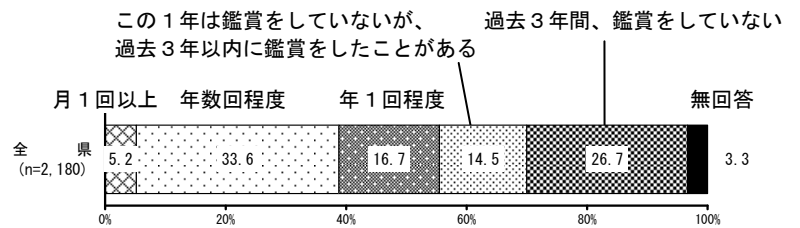


Q9 あなたは、この1年でどのくらい、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などの会場で、文化・芸術を鑑賞しましたか。

※「文化・芸術」とは、芸術（音楽、美術、演劇、舞踊、映画など）、芸能（歌舞伎、能、講談、落語、浪曲、漫才、歌唱など）、文芸（短歌、俳句、詩、小説など）、文化財（建造物、遺跡など）、生活文化（お茶、生け花、手芸など）等を意味しています。

文化・芸術の鑑賞

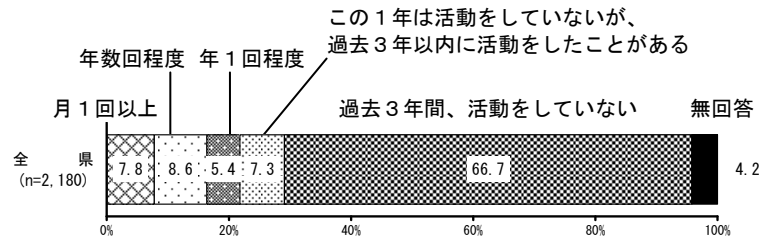
- ここ1年に文化・芸術の鑑賞をした人は55.5%、過去3年以内に文化・芸術の鑑賞をした人は70.0%となっている。



Q10 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関することで、個人又はグループで、継続して活動しましたか。

文化・芸術の継続活動

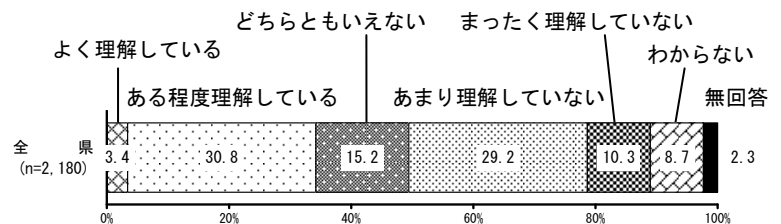
- ここ1年に文化・芸術に関することで継続的に活動した人の割合は21.8%、過去3年以内に文化・芸術に関することで継続的に活動した人は29.1%となっている。



Q11 あなたは、原子力発電の仕組みや浜岡原子力発電所でどのような対策が講じられているかについて、どの程度理解していますか。

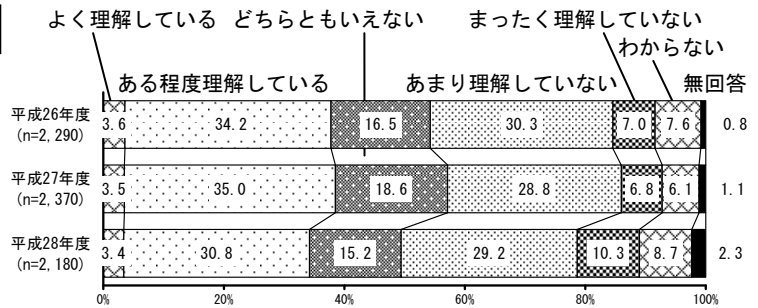
原子力発電の仕組みや対策への理解度

- 「よく理解している」と「ある程度理解している」を合わせた34.2%が理解しているとしている。一方、「まったく理解していない」と「あまり理解していない」を合わせた39.5%が理解していないとしており、理解していないと思う人が理解していると思う人より5.3ポイント高くなっている。



経年比較

●平成 26 年度以降の推移でみると、「よく理解している」と「ある程度理解している」を合わせた割合は3割台で推移している。



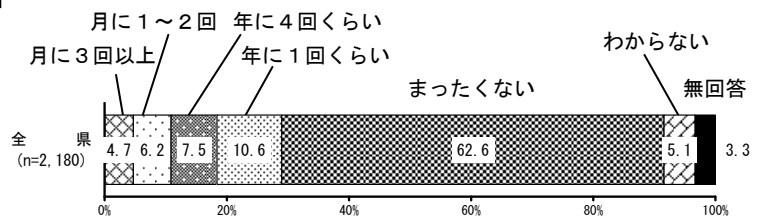
Q12 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。

「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動
- ・学校支援活動（家庭科等の授業支援や地域学習等の授業協力、部活動支援、学校行事への協力、放課後の学習支援、花壇の環境整備等）
- ・地域における活動（登下校の見守りや交通安全・防災・防犯等の活動、読み聞かせや音楽・絵画等の活動、自然体験や国際交流等の活動等）

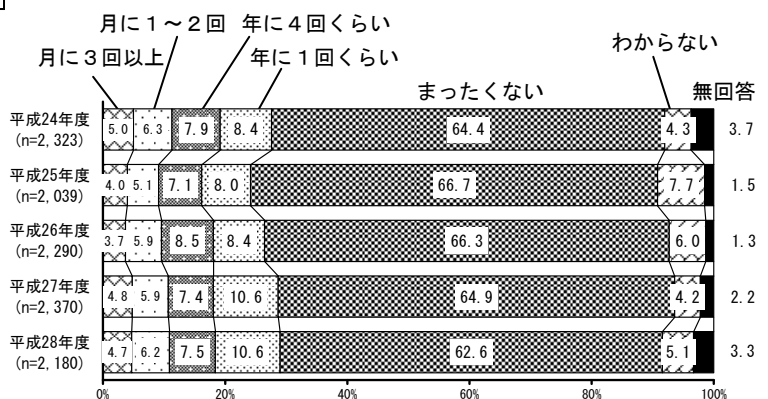
子どもをはぐくむ活動への参加状況

●「子どもをはぐくむ活動」をしている人は29.0%となっており、一方、「まったくない」人は62.6%となっている。「子どもをはぐくむ活動」をしている人はしていない人の半数以下となっている。



経年比較

●平成 24 年度以降、「子どもをはぐくむ活動」をしている人は2割台、していない人は6割台で推移している。



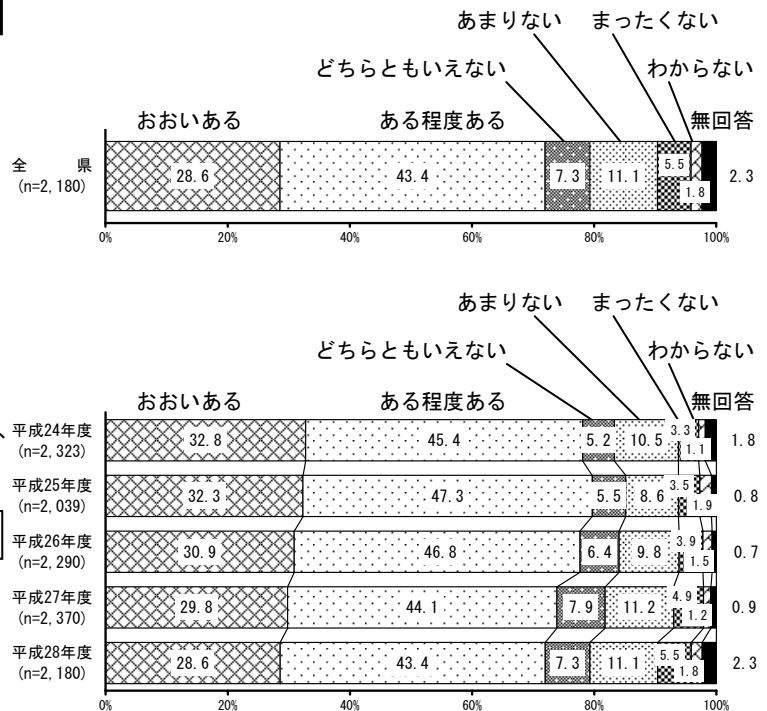
Q13 あなたは、日常生活の中で富士山について、想ったり、考えたりすることはありますか。

富士山への関心

- 「おいにある」と「ある程度ある」と回答した人を合わせた72.0%が富士山について想ったり、考えたりすることがあるとしている。一方、「まったくない」と「あまりない」を合わせた16.6%は富士山について想ったり、考えたりすることがないとしており、富士山について想ったり、考えたりすることがある人が、ない人の4倍以上になっている

経年比較

- 平成24年度以降の推移で見ると、富士山について想ったり、考えたりすることがある人は7割台で推移している。



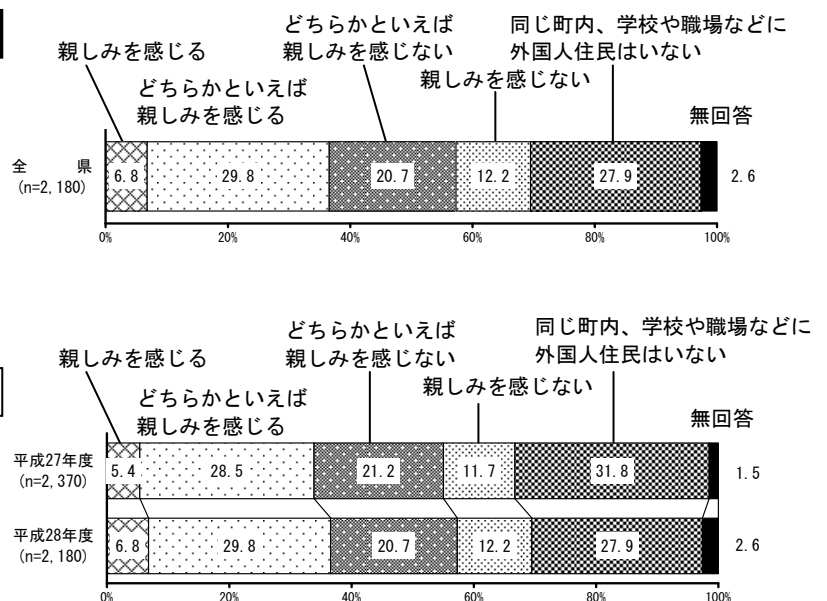
Q14 あなたは、同じ町内、学校や職場など地域で暮らす外国人住民について、どの程度親しみを感じますか。

外国住民への親しみ

- 「親しみを感じる」と「どちらかといえば親しみを感じる」を合わせた36.6%が親しみを感じているとしている。一方、「どちらかといえば親しみを感じない」と「親しみを感じない」を合わせた32.9%が親しみを感じないとしている。

経年比較

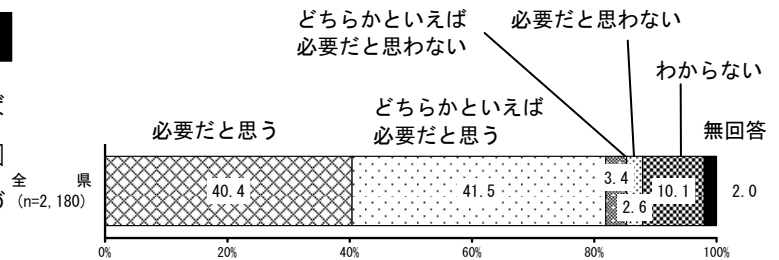
- 前年度と比較すると、「親しみを感じる」と「どちらかといえば親しみを感じる」を合わせた割合が2.7ポイント高くなっている。



Q15 地域や学校、職場などにおいて、日本人も外国人も共に力を発揮しやすい環境づくりが必要だと思いませんか。

多文化共生への環境づくりの必要性

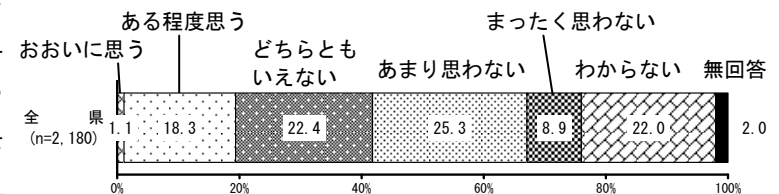
- 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた81.9%が外国人住民も共に力を発揮しやすい環境づくりが必要だと思うとしている。



Q16 県内のまちのなかで、学生をはじめとした若者の学びや交流・社会活動などによる賑わいが増えていると思いませんか。

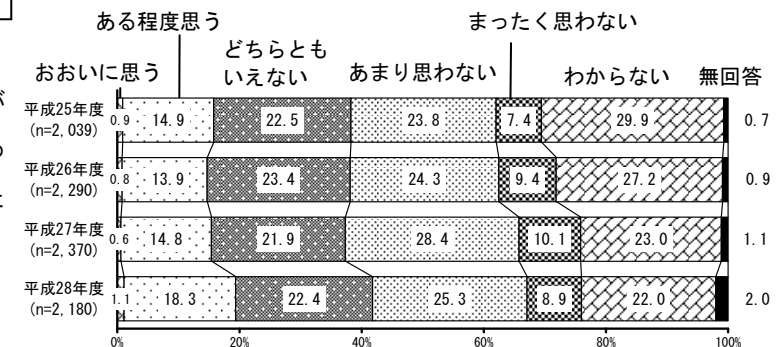
若者の賑わい

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた19.4%が若者の賑わいが増えていると思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた34.2%は若者の賑わいが増えていると思わないとしている。



経年比較

- 前年度と比較すると、「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が4.0ポイント高くなり、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合は4.3ポイント低くなっている。



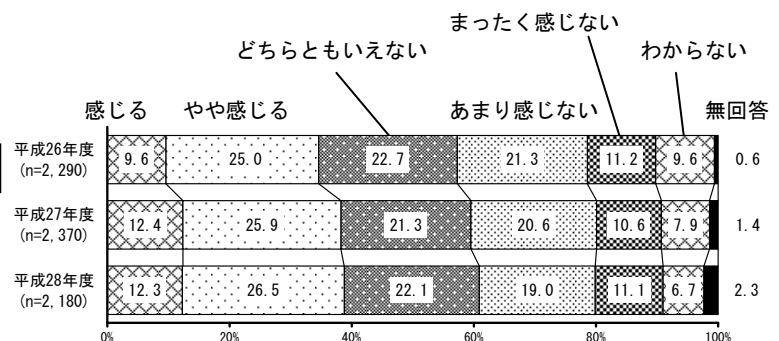
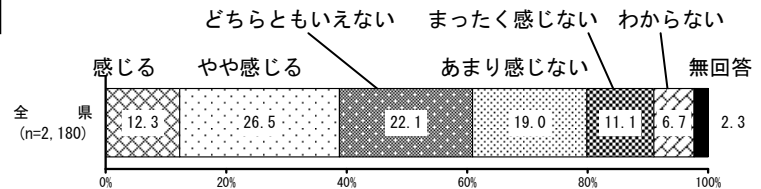
Q17 あなたの生活の中で、「仕事と生活の調和」は実現していると感じますか。

ワーク・ライフ・バランス

- 「感じる」と「やや感じる」を合わせた38.8%が「仕事と生活の調和」は実現していると感じているとしている。一方、「まったく感じない」と「あまり感じない」を合わせた30.1%が「仕事と生活の調和」は実現していると感じていないとしている。

経年比較

- 「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は高くなっている。



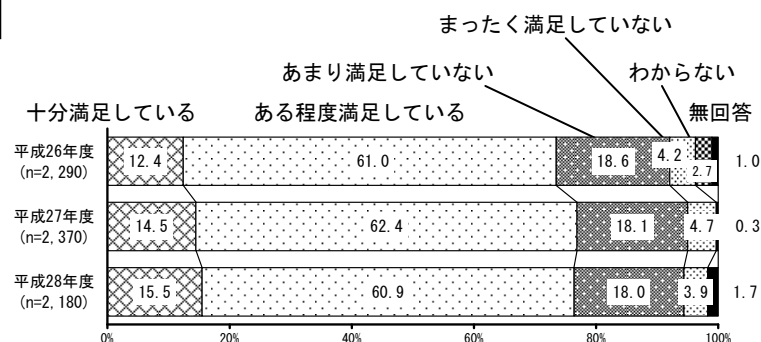
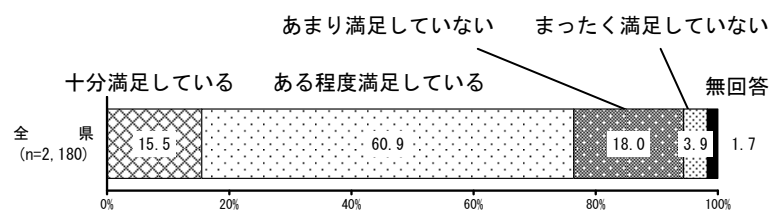
Q18 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。

住宅・住環境の満足度

- 「十分満足している」と「ある程度満足している」を合わせた76.4%が満足しているとしている。一方、「まったく満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた21.9%が満足していないとしている。

経年比較

- 「十分満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合は7割台、「まったく満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた割合は2割台で推移している。(注 選択肢「わからない」は平成26年度のみ)



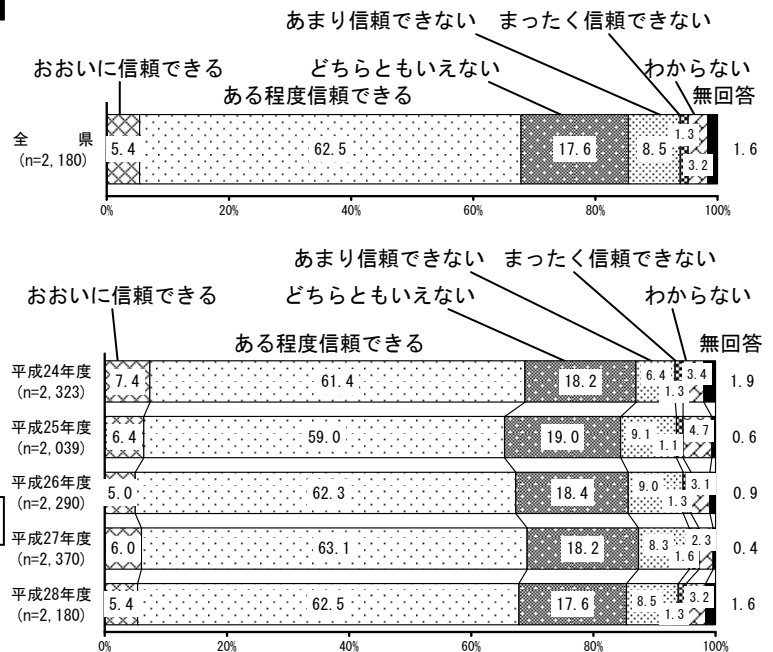
Q19 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

食品の安全性に関する意識

- 「おいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた67.9%が県内で購入する食品の安全性を信頼できるとしている。一方、「まったく信頼できない」と「あまり信頼できない」を合わせた9.8%は県内で購入する食品の安全性を信頼できないとしており、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人が、信頼できない人の約7倍になっている。

経年比較

- 「おいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた割合は6割台後半で推移している。



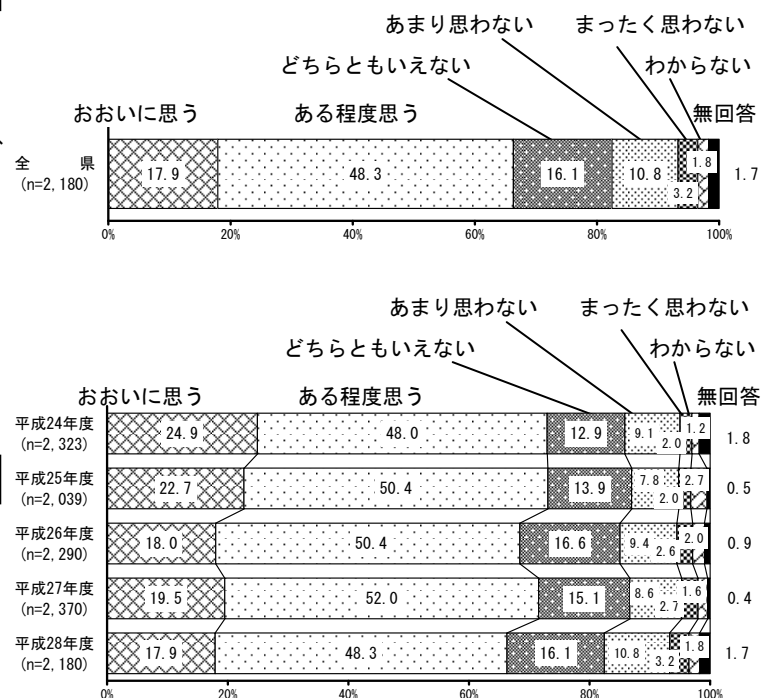
Q20 あなたは、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思いますか。

地域の景観への誇り

- 「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた66.2%が自分が住んでいる地域の景観を誇りに思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた14.0%は自分が住んでいる地域の景観を誇りに思わないとしており、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う人が、思わない人の4倍以上になっている。

経年比較

- 「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合は7割前後で推移していたものの、今年度は前年度より5.3ポイント低くなっている。



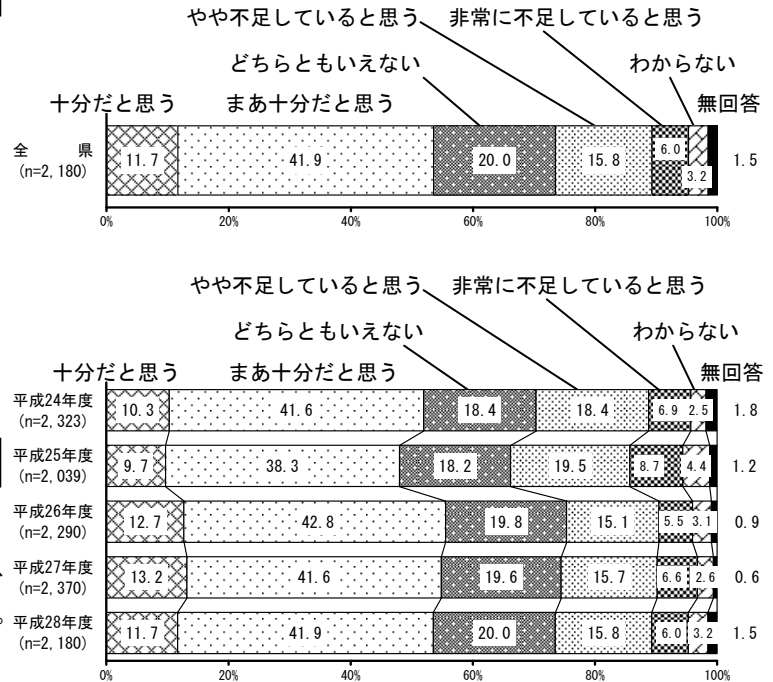
Q21 あなたの身近にある公園や歩道などの花や緑の量は十分だと思いますか。

花や緑の量

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた 53.6%が花や緑の量が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた 21.8%は花や緑の量が不足していると思うとしており、花や緑の量が十分だと思う人が、不足していると思う人の2倍以上となっている。

経年比較

- 平成24年度以降、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた割合は、25年度を除いて5割台で推移している。



Q22

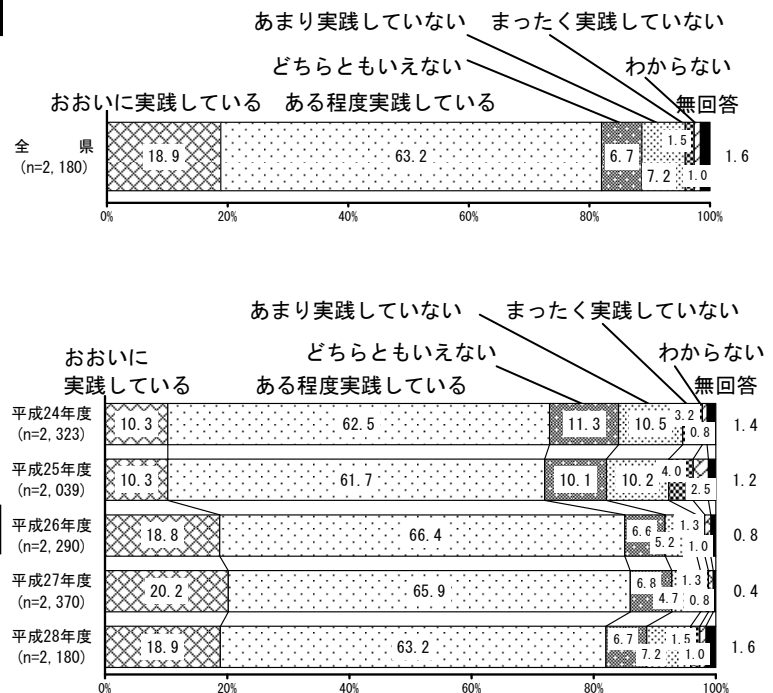
あなたは、節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など、環境への配慮を実践していますか。

環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた 82.1%が環境を守るための活動を実践しているとしている。一方、「まったく実践していない」と「あまり実践していない」を合わせた 8.7%は環境を守るための活動を実践していないとしており、環境を守るための活動を実践している人が、実践していない人の9倍以上になっている。

経年比較

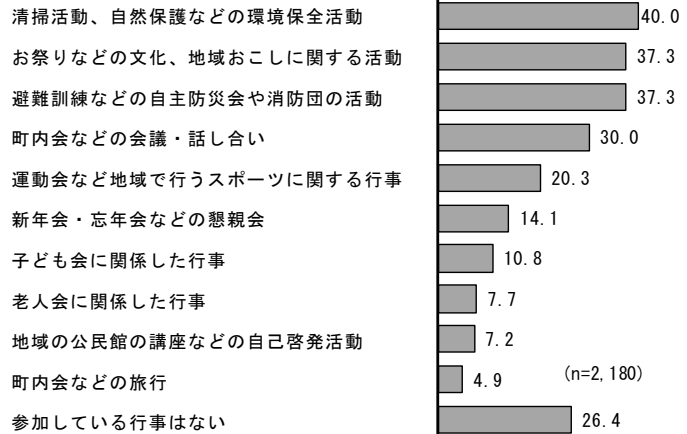
- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた割合は、平成26年度以降は8割台で推移している。



Q23 あなたは地域のどのような行事や活動に参加していますか。(M.A.)

参加している地域の行事や活動

●「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」に参加している人の割合が40.0%と最も高い。以下、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」の順になっている。一方、「参加している行事はない」は26.4%となっている。(右図は上位10位と「参加している行事はない」)



Q24

あなたは、多くの人が利用する施設（公共施設、鉄道駅、ショッピングセンターなど）や日常生活で使う製品、文字が大きく読みやすい情報誌や新聞など、身の回りにおいて、10年前と比べて誰もが暮らしやすい、ユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思いますか。

「ユニバーサルデザイン」の主な事例

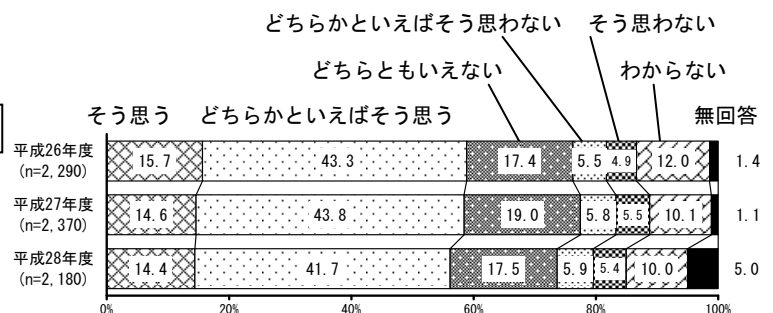
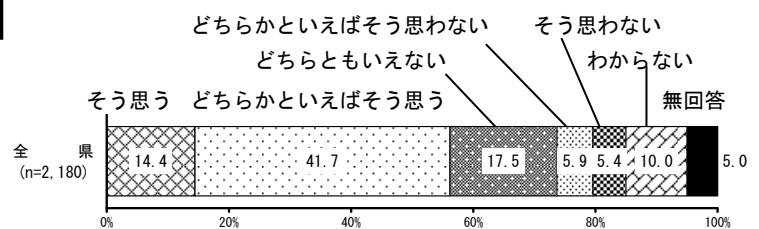
- エレベーターや多機能トイレなどの整備
- ボタンが大きく使いやすい家電製品
- 分かりやすい案内表示（サイン）
- 高齢の方々が参加できる行事や活動の増加

ユニバーサルデザインによる社会づくり

●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた56.1%がユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいるとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた11.3%はユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいないとしている。

経年比較

●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思う割合は5割台で推移している。



Q25

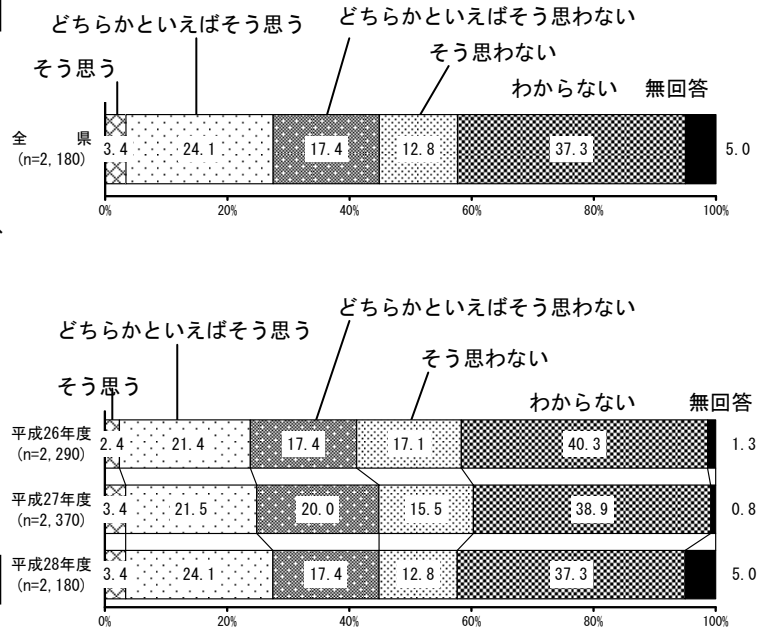
あなたは、静岡県において、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思いますか。

男女共同参画に関する意識

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた27.5%が性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思うとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた30.2%は性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思わないとしており、思わない人が思う人より2.7ポイント高くなっている。

経年比較

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は高くなっている。



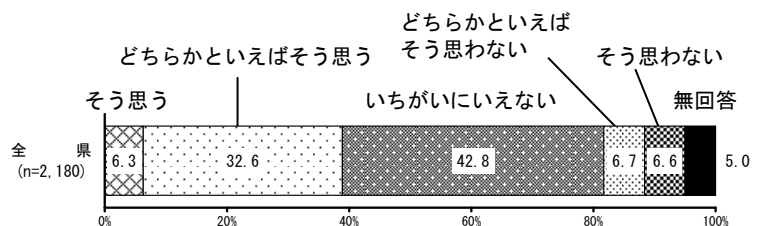
Q26

あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか。

※「人権尊重の意識」…人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

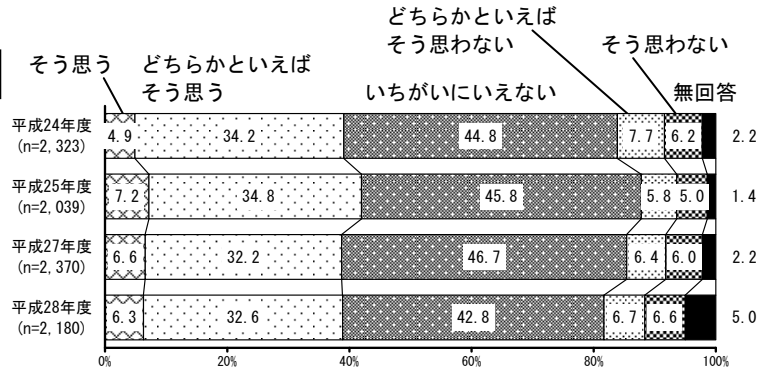
人権尊重の意識

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた38.9%が人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県になっていると思うとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた13.3%は人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県になっていると思わないとしている。



経年比較

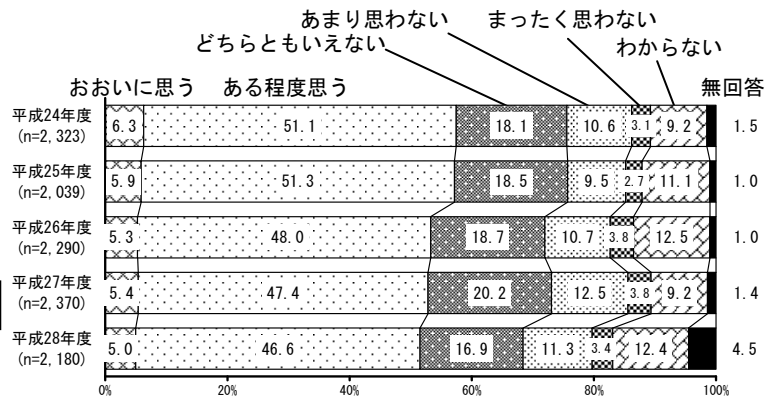
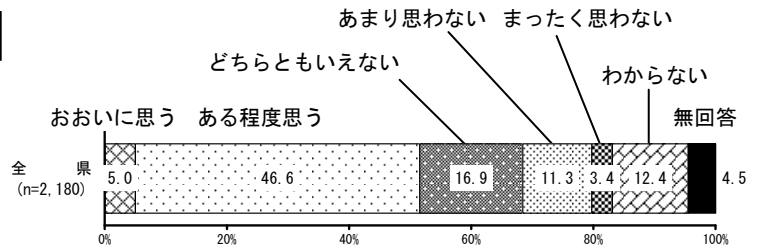
- 「そう思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた割合は4割前後で推移している。



Q27 あなたがお住まいのまちは、子どもを育てやすいところだと思いますか。

子どもの生み、育てやすさ

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた51.6%が子どもを育てやすいところだと思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた14.7%は子どもを育てやすいところと思わないとしている、子どもを育てやすいところだと思う人が、思わない人の3倍以上になっている。



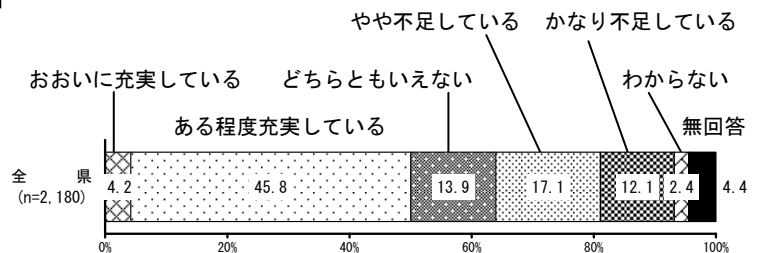
経年比較

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が5割台で微減している。

Q28 あなたがお住まいのまちや最寄りの都市では、商業、金融、情報、医療、交通、娯楽などあなたが必要だと思う機能が充実していると思いますか。

都市機能

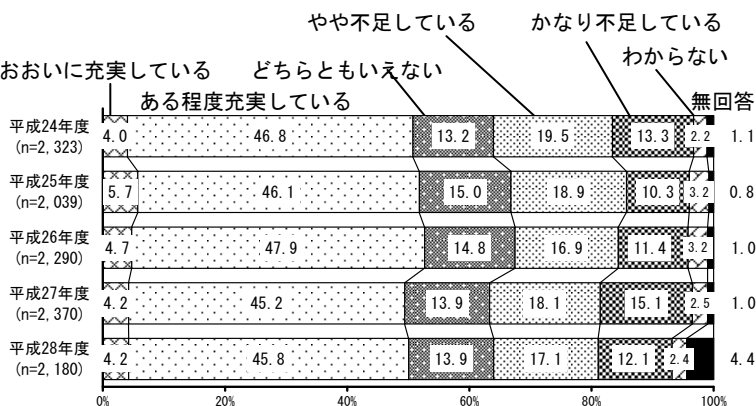
- 「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた50.0%が住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思うとしている。一方、「かなり不足している」と「やや不足している」を合わせた29.2%は住まいのまちや最寄りの都市の機能が不足してい



と思うとしており、住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思うの方が高くなっている。

経年比較

●「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた割合は5割前後で推移している。



Q29 あなたは、次にあげるとような静岡県が行っている「行財政改革」に対する取組について御存知ですか。

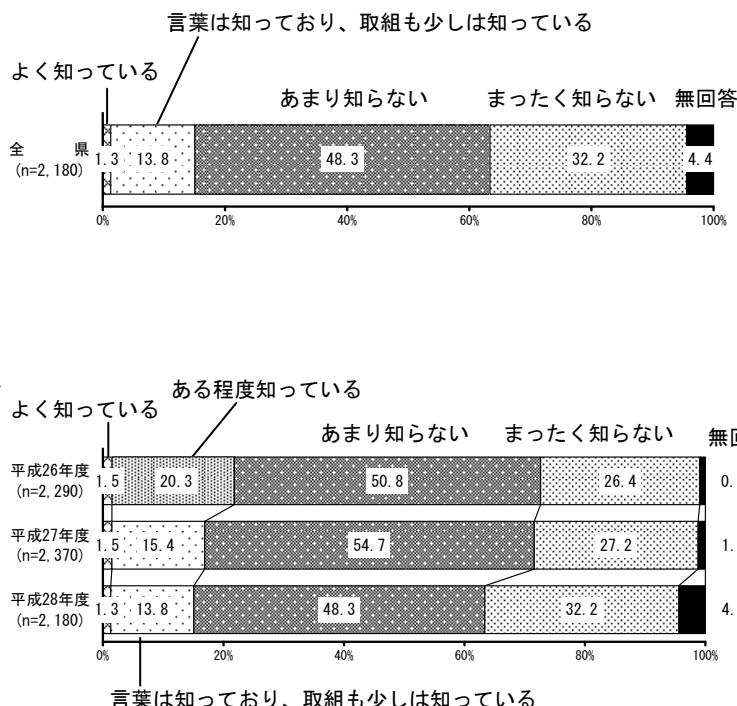
- 「静岡県の行財政改革」の例
- ・“ふじのくに” 士民(しみん)協働 事業レビュー・事業仕分け
 - ・県民と知事や県職員との意見交換 (タウンミーティングなど)
 - ・“ふじのくに” づくりに向けた予算編成、組織の見直し (職員数の削減)
 - ・静岡県行財政改革推進委員会 (補助教材の選定についてなど)
 - ・ひとり1改革運動 (業務改善運動)
 - ・静岡県行財政改革大綱
 - ・市町との連携推進 (行政経営研究会など)

行財政改革の取組の認知状況

●「よく知っている」と「言葉は知っており、取組も少しは知っている」を合わせた 15.1%が「行財政改革」に対する取組を知っているとしている。一方、「まったく知らない」と「あまり知らない」を合わせた 80.5%は「行財政改革」に対する取組を知らないとしており、「行財政改革」に対する取組を知らない人が、知っている人の5倍以上になっている。

経年比較

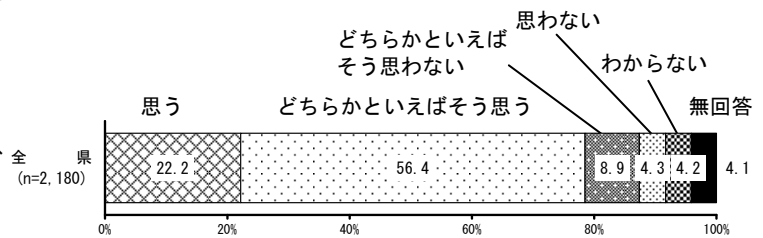
●「よく知っている」と「言葉は知っており、取組も少しは知っている」(平成26年度は「ある程度知っている」)を合わせた割合は低くなっている。



Q30 あなたのお住まいの地域は、住みよいところだと思いますか。

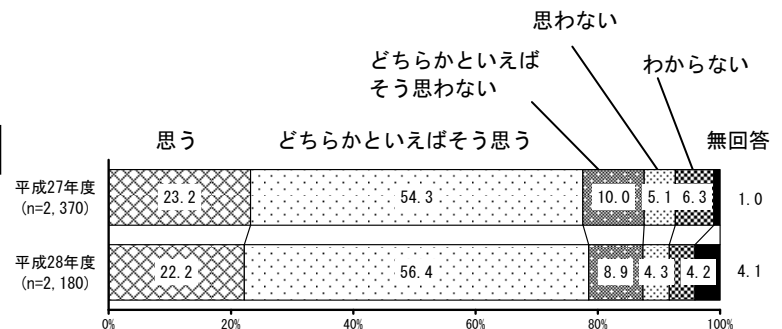
地域の住みよさ

- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた 78.6%が住んでいる地域を住みよいところと思うとしている。一方、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた 13.2%は住んでいる地域を住みよいところと思わないとしており、住んでいる地域を住みよいところと思う人は思わない人の約6倍となっている。



経年比較

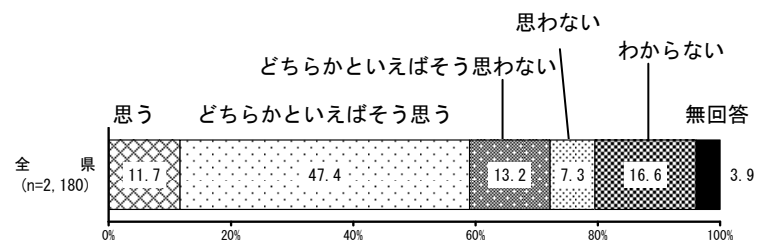
- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は7割台で推移している。



Q31 あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。

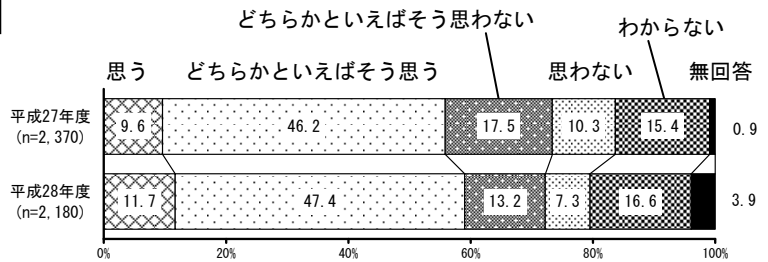
地域の絆や支え合いの仕組みの形成

- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた 59.1%が地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うとしている。一方、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた 20.5%は地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思わないとしており、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人は思わない人の約3倍となっている。



経年比較

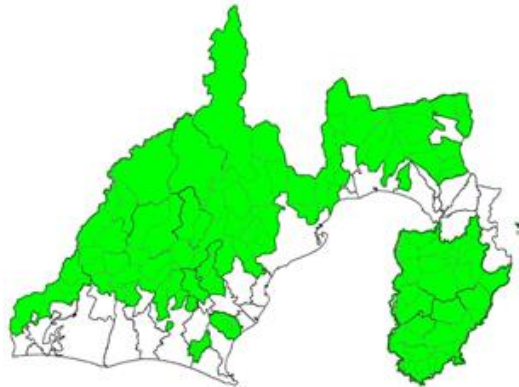
- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が3.3ポイント高くなっている。



Q32 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)

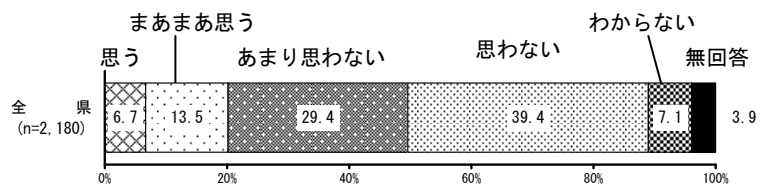
※「中山間地域」とは、「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは図(網掛け部分)のとおりです。



中山間地域での生活意向

- 「思う」と「まあまあ思う」を合わせた20.2%が中山間地域に住みたいと思うとしている。一方、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた68.8%は中山間地域に住みたいと思わないとしており、中山間地域に住みたいと思わない人が思う人の3倍以上になっている。



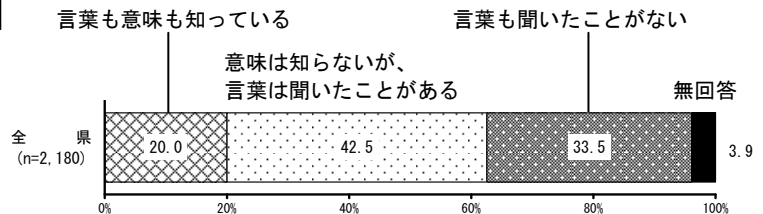
生物多様性に関する意識

Q33 あなたは、「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度ご存知ですか。

※「生物多様性」とは、地域ごとに固有の自然があり、それぞれに特有の生きものがあることを、そして、生きものが生物間の食べる-食べられるといった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。

「生物多様性」という言葉や意味の認識

●「生物多様性」という言葉や意味について、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答した人が42.5%と最も高く、以下、「言葉も聞いたことがない」、「言葉も意味も知っている」となっている。

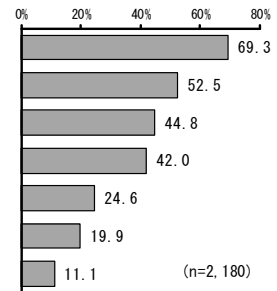


Q34 生物多様性の保全を図り、自然のめぐみを受け続けるために、どのような取組が必要だと思いますか。(M.A.)

生物多様性の保全に必要な取組

●「森林、川、海、里山など動植物が生息できる環境の保全・復元」と回答した人が69.3%で最も高く、以下、「外来動植物対策（導入阻止、根絶、管理）」、「農産物などに害を及ぼす有害鳥獣（イノシシ、ニホンジカなど）の適正管理」、「地球温暖化防止活動の促進」の順になっている。

森林、川、海、里山など動植物が生息できる環境の保全・復元
 外来動植物対策（導入阻止、根絶、管理）
 農産物などに害を及ぼす有害鳥獣（イノシシ、ニホンジカなど）の適正管理
 地球温暖化防止活動の促進
 希少野生動植物の調査・保全
 生物多様性の保全に配慮したライフスタイルや企業活動の推進
 わからない

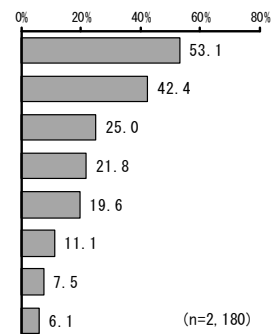


Q35 あなたは、生物多様性の保全に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いたいと思いますか。(M.A.)

保全に配慮したライフスタイル

●「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」（53.1%）と回答した人が半数を超え最も高く、以下、「生きものを最後まで責任を持って育てる」、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」の順になっている。

節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む
 生きものを最後まで責任を持って育てる
 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう
 エコマークに認定されたものなど、環境に配慮した商品を積極的に購入する
 自然保護活動や美化活動に参加する
 自然の生きものについて家族や友人と話し合う
 エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する
 特に行う予定はない



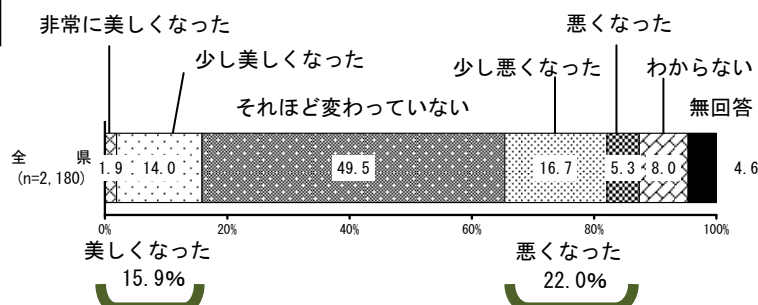
景観に関する意識

Q36 あなたの住む地域の景観は、10年前と比べてどのように変化しましたか。

SQ あなたの住む地域の景観が、10年前と比べて悪くなったと思う理由は何ですか。(3.M.A.)

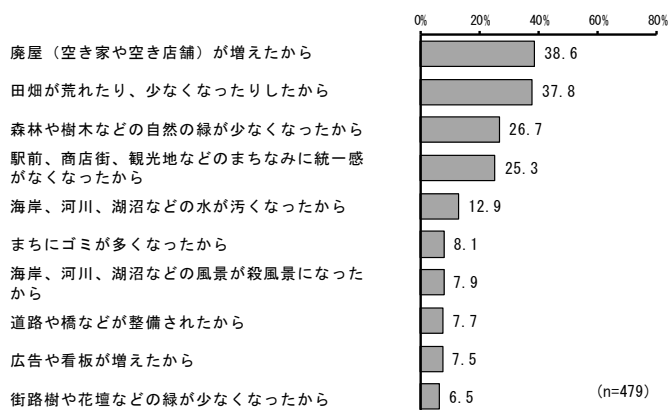
10年前と比べた地域景観の変化

- 「非常に美しくなった」と「少し美しくなった」を合わせた15.9%が地域の景観が美しくなったとしている。一方、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた22.0%が地域の景観が悪くなったとしており、地域の景観が10年前に比べて「悪くなった」と思う人が多い。



悪くなったと思う理由

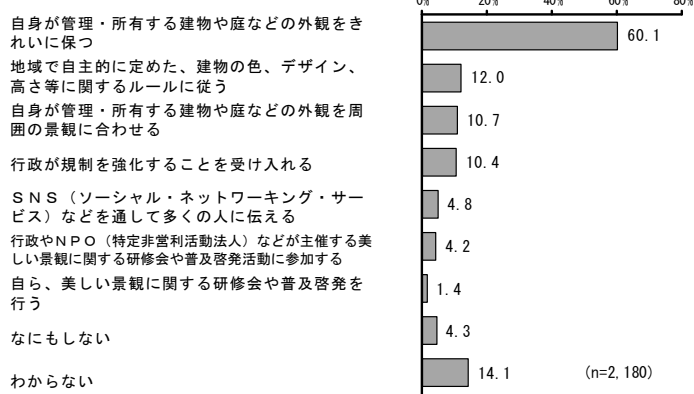
- 地域景観が「悪くなっている」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「廃屋（空き家や空き店舗）が増えたから」と回答した人が38.6%が最も高く、以下、「田畑が荒れたり、少なくなったりしたから」、「森林や樹木などの自然の緑が少なくなったから」、「駅前、商店街、観光地などのまちなみに統一感がなくなったから」の順になっている。（右図は上位10位）



Q37 あなたの住む地域の美しい景観を、創り・守り・育てていくために、あなたは、どのような協力ならしてもいいと思いますか。(3.M.A.)

保全に協力できる活動

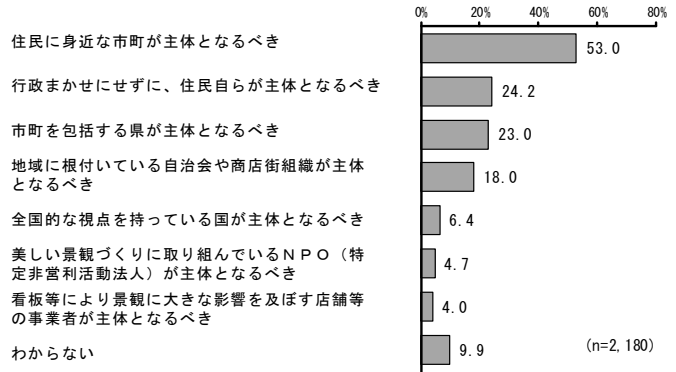
- 「自身が管理・所有する建物や庭などの外観をきれいに保つ」と回答した人の割合が60.1%と半数を超えて最も高い。



Q38 あなたの住む地域の美しい景観を、創り・守り・育てていくためには、あなたは、誰が主体となって取り組んでいくべきだと思いますか。(2.M.A.)

保全に取り組む主体となる組織・団体

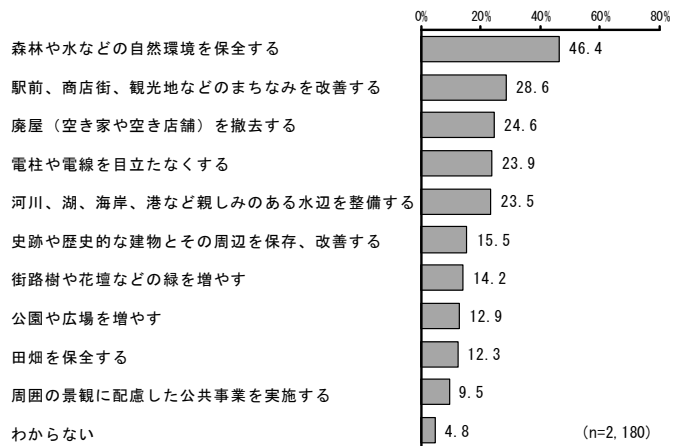
●「住民に身近な市町が主体となるべき」と回答した人が 53.0%と過半数で最も高く、以下、「行政まかせにせずに、住民自らが主体となるべき」、「市町を包括する県が主体となるべき」の順になっている。



Q39 あなたは、静岡県の景観をより良くするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(3.M.A.)

景観向上に必要な取組

●「森林や水などの自然環境を保全する」と回答した人が 46.4%と最も高く、以下、「駅前、商店街、観光地などのまちなみを改善する」、「駅前、商店街、観光地などのまちなみを改善する」、「廃屋（空き家や空き店舗）を撤去する」などとなっている。（右図は上位 10 位と「わからない」）



防犯及び交通安全に関する意識

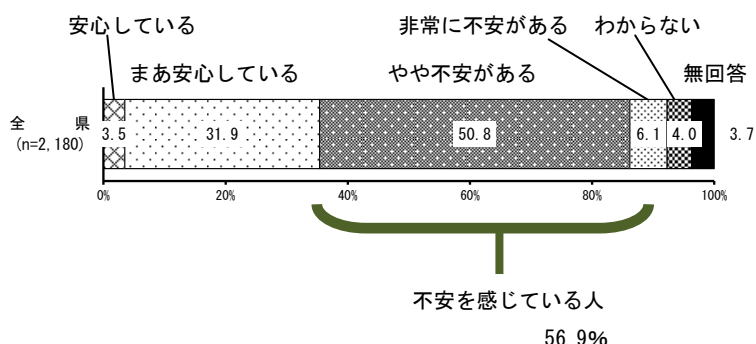
Q40 あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

SQ 不安を感じている犯罪はなんですか。(M.A.)

犯罪被害に

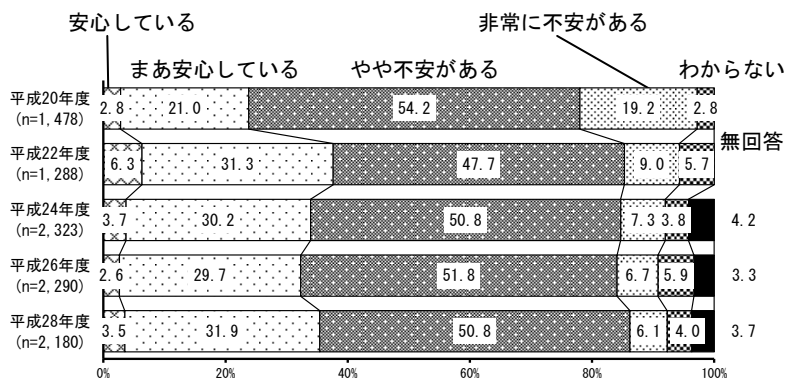
遭うのではないかと不安

- 「非常に不安がある」と「やや不安がある」を合わせた 56.9%が県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じているとしている。一方、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた 35.4%は県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じていない人で、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じている人の方が高くなっている。



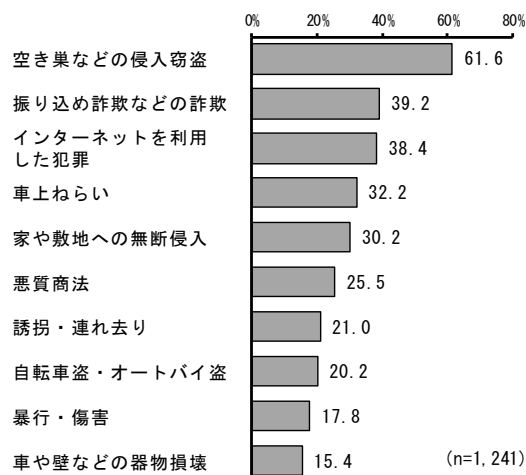
経年比較

- 平成 22 年度以降、「非常に不安がある」と「やや不安がある」を回答した人を合わせた割合は5割台、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた割合は3割台で推移している。



SQ 不安を感じている犯罪

- 「空き巣などの侵入窃盗」と回答した人が61.6%と最も高く、以下、「振り込め詐欺などの詐欺」、「インターネットを利用した犯罪」、「車上ねらい」、「家や敷地への無断侵入」などとなっている。(右図は上位10位)

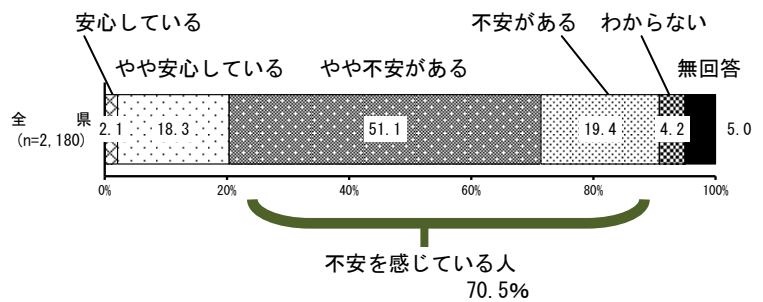


Q41 あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

SQ あなたが、交通事故に遭う（巻き込まれる）のではないかと不安を感じる交通違反はなんですか。（M.A.）

**交通事故に
遭うのではないかと不安**

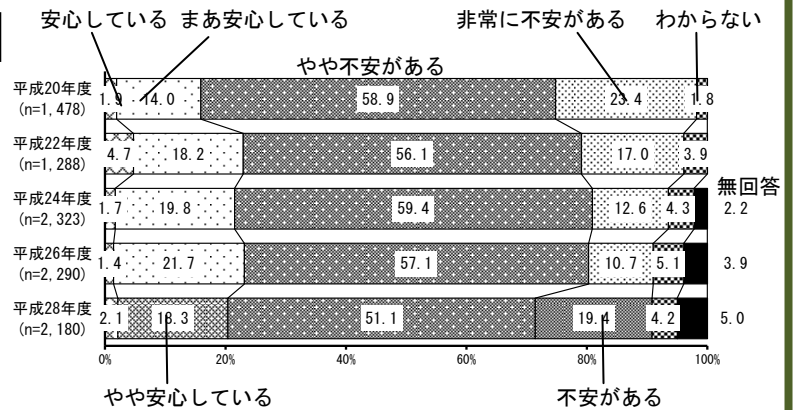
●「不安がある」と「やや不安がある」を合わせた割合 70.5%が県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じている人、「安心している」と「やや安心している」を合わせた割合 20.4%が県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じていない人で、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じていない人は、感じていない人の3倍を大きく上回っている。



経年比較

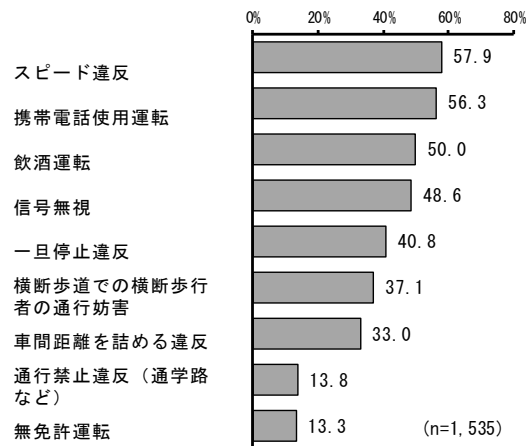
●平成22年度以降、「不安がある」と「やや不安がある」を合わせた割合は7割前後で推移している。

(注) この質問は隔年で実施されている。回答肢は今年度より「まあ安心している」を「やや安心している」、「非常に不安がある」を「不安がある」に変更している。



SQ 不安を感じている交通違反

●「スピード違反」と回答した人が57.9%と最も高く、以下「携帯電話使用運転」、「飲酒運転」が5割を上回り、「信号無視」、「一旦停止違反」が4割台の順になっている。



県政へのご意見をお待ちしています

○県民のこえ担当が直接お聞きします

県庁の全課（室）、また県のすべての出先機関にはそれぞれ、県民のこえ担当がおりますので、お気軽にどうぞ。

○時間が取れない・直接言いにくい・・・

手紙、はがき、ファクシミリ、電子メールでもご意見・ご提案・ご要望を受け付けています。

○県民のこえ意見箱

「県民のこえ意見箱」（意見用紙と料金受取人払封筒）を県内104箇所に設置しております。こちらもご利用ください。

<設置場所>

県庁、市町庁舎、県総合庁舎、県民生活センター、御殿場健康福祉センター、島田土木事務所、袋井土木事務所、御前崎港管理事務所、県立美術館、県立中央図書館、県男女共同参画センター、グランシップ、県立総合病院、県立こども病院、富士山静岡空港、ふじのくに地球環境史ミュージアム

<問合せ先>

静岡県知事公室広聴広報課県民のこえ班あて
電話：054-221-2235 FAX：054-254-4032
電子メール koe@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県相談窓口案内

電話 **054-221-2292**(ふじのくに)

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/soudan-madoguchi.html>
(携帯電話) http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe_soudan/index.html

県庁の仕事や

担当部署のご案内、

県庁見学申込み

県庁案内

054-221-2455

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

平成 28 年度

県政世論調査（概要報告書）

平成 28 年 11 月

編集・発行 静岡県知事公室広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電 話 (054) 221-2235
F A X (054) 254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
